

Title	編集後記
Sub Title	
Author	飯田, 鼎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.4 (1964. 4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19640401-0095

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

今年一九六四年は、マックス・ウェーバー誕生百年にあたる。そしてまたカール・マルクスとフリードリッヒ・エンゲルスが指導的な役割を果たした第一インターナショナルが結成されたのも、今から百年まえの一八六四年である。

マルクスとウェーバーは、一九世紀から二〇世紀にかけての社会科学の歴史に、不滅の業績をうちたてたのであるが、その影響は今もなお社会科学の領域に益々大きな波紋を投じている。しかしわが国においてはこの二人の巨匠の全貌が正しく評価されるというよりは、むしろある一面だけがことさらに強調されるという傾向がなかったであろうか。それはたしかに社会科学の進歩の結果であるかもしれないが、革命家、社会学者としてのマルクス、独創的な思想家としてのウェーバーの全人的な把握が見失われてしまふ危険性がある。個々バラバラに、自己の知的関心と特殊な興味だけが表面にでており、そのために、現在、何のためにマルクスやウェーバーを研究するのか、現代における問題としてとらえる立場が稀薄化されるおそれがある。アカデミズムの名のもとに政治的発言を極度に警戒するウェーバー主義者、これは実にウェーバーの「没価値性」の論理をもって自己の保身の道具たらしめるものである。ドイツ帝国の崩壊という動乱の間に生きたウェーバーは、まさしく政治への熱烈な関心をいかにともなしたがたかつたからである。

もっとも勇敢に生き、そしてもっとも戦闘的に闘いつづけたマルクスに比して現代のマルクス主義者には、あまりにも闘争姿勢が失われつつあるような気がしてならない。マルクス主義の研究がかくも盛んであり、その出版物はソヴェートにつぐにもかかわらず、共産党をはじめとする革新政党が国民の支持をえることができず、顔魔とニヒリズムがまんえんしているのは、どうしたことであろうか。マルクス主義者の不精と無気力と全く無関係ではありえないと思う。「手袋をはめていては革命はできない」(レーニン)

(飯田 鼎)

昭和三十九年四月一日発行

◎三田学会雑誌 第五十七卷 第四号

定価 一二〇円(送料)

編集兼
発行人

東京都港区芝三田二丁目二番地
慶應義塾経済学会
代表者 山 本 登

印刷者

電話三田(4)五一八一
振替口座番号 東京四四〇五六
東京都港区芝三田豊岡町八番地
図書印刷株式会社
安 倍 七 郎

半カ年予約購読料(送料共)

一カ年 " " 七二〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

発行所

東京都高輪局区内三田綱町一番地
慶 應 通 信
振替口座番号 東京一五五四九七